

平成22年度第3回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成22年11月10日（水） 午後1時55分～午後4時25分

場 所 松嶺コミュニティセンター 集会室

出席委員 9名

1号委員 佐藤 旭 今田 充代 阿部 茂 長堀 俊一 小田 和夫 遠藤 俊三
佐々木 亨

2号委員 土田 迪子

3号委員 佐藤 洋子

欠席委員 6名

1号委員 齋藤 勝 佐藤 ゆき子 新館壽美子 佐藤 修 遠田 聡

3号委員 木村 美津枝

酒田市出席者

総務部政策推進課 課長 白崎 好行 同主査 大谷 謙治 同主査 山口 仁

教育委員会学区改編推進室 室長 岩堀 慎司 同補佐 渡邊 学

松山総合支所 支所長 太田 豊 地域振興課長 秋葉 弘毅

建設産業課長 難波 富也 市民福祉課長 久松 正一

地域振興課補佐 後藤 晃 地域振興課調整主任 石川 春市

同調整主任 丸藤 真也 同主任 鈴木 陽子

傍聴者 2名

議事日程

1 開 会

2 あいさつ

3 会議録署名委員の選出

4 協 議

(1) 松山地区過疎計画（案）について

(2) 平成23年度地域づくり事業（案）について

(3) その他

5 そ の 他

6 閉 会

【議 事】

1 開 会・・・地域振興課長

2 あいさつ

【地域協議会会長】

ここ何日間か悪天候が続いている中、御出席いただきありがとうございます。本日の協議

は最初に過疎計画についてですが、本来であれば9月頃に話題にする予定でしたが、県との協議が整わなくて本日まで延びたと聞いております。そのへんの経過を踏まえて詳しい説明をお願いしたいと思います。また、その他で皆様方から御意見をいただく場を設けたいと思いますのでよろしくをお願いします。

3 議事録署名委員の選出

地域振興課長 申し合わせにより、今回は小田和夫委員をお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

委員 異議なし。

4 協 議

(1) 松山地区過疎計画（案）について

政策推進課長の挨拶の後、山口主査が資料1、資料2、資料3に基づき説明を行う。

【説明概要】

事前に配布しております資料に基づいて説明いたします。資料1については酒田市総合計画と本日説明いたします過疎計画、それに来年7月頃を目途にみなさんと一緒に策定を予定しております地域ビジョンの骨子が載っております。それぞれが独立しているものではなく、密接に関連しているものです。酒田市総合計画は既に完成しているものです。基本理念が3つ記載されております。今回の過疎計画についても基本理念を踏まえて策定することになります。地域ビジョンの策定についても同じことが言えます。総合計画には8項目の施策があります。その下に基本計画として236項目の事務事業があり、酒田市では基本的にこの施策に基づいて事業をしていきます。過疎計画については平成22年度から6カ年の事業となります。国の基準項目に従って酒田市としての事業を載せております。具体的なことは資料2に載っております。具体的には①の産業の振興を例にとりますと、最初に市の方針を載せております。その次に現況と問題点を記載しております。松山地域においては農業、林業、工業、商業、観光について載せております。次にその対策があり、最後に平成22年度から27年度までの6年間の事業計画を載せております。こういう形で9項目の施策を載せております。過疎計画の中では、主に各地域に共通している問題点を取り上げており、なかなか地域の独自性は出せないのですが、地域の特色は今後策定する地域ビジョンのなかで検討していただくこととなります。地域ビジョンについては平成23年度から総合計画の終了期の平成29年度までの計画となります。過疎計画の中でも示しております各地域の整備方針に従い、策定することとなります。今後、過疎計画に盛り込まれた事業はビジョンに反映し、ビジョンで取り上げた項目は過疎計画で見直すということを繰り返し、事業に取り組んでいきます。資料3については、特に松山地域について取り上げたものであり、事業については今後検討する事業も載せてあります。

【協 議】

長堀 委員 私は小見地区に住んでおります。交通体系の整備の中で、小見1号線、小見

石名坂線を取り上げていただいた。どちらも、小見地区の長年の要望であり、ようやく計画に載ったという感じである。小見石名坂線は山と川に挟まれたカーブのきつい非常に危険な道路であり、小見1号線は小見から新山へ抜ける道路ですが、自動車教習所のような曲がりくねった道路であり、花壇の部分は車の交差ができない状態である。今回計画に載ったことは地元にとってたいへん喜ばしいことであり、今後に期待するものである。

政策推進課長 今回の事業計画は相当精査したものである。過疎計画に載せたということは、必要性があるからであり、重要路線と考えている。

建設産業課長 小見1号線の花壇の部分については既に工事を発注済である。小見石名坂線については技術的に難しい工事であると聞いている。この路線については本所の所管課でも松山地区に残された大きな課題であると認識している。

土田 副会長 青少年海外派遣研修事業の中身は酒田市全体の中での交流でしょうか、松山中学校でやっている事業も含まれるのでしょうか。

政策推進課長 過疎計画に載っているのは松山中学校の事業です。旧酒田市の事業は総合計画の中でやっているものである。

遠藤 委員 今後検討事項にある、スキー場拡張整備計画はぜひ外さないでいただきたい。これも合併前からの長年の要望であり、早めに計画に載せてもらいたい。

眺海の森事業については前回の協議会でも、阿部委員が宣伝不足を指摘していたが、例えばキャンプ場は、当初の頃は酒田の中学生や高校生の利用があったが、ここ数年は全然利用者がいない。せっかくの施設が利用されていないので、ぜひ良い方向へ検討していただきたい。

政策推進課長 スキー場については、今年度、更に利用しやすいようにシーズン券を含めた料金の見直しを行っている。眺海の森については良い施設がそろっており、今後有機的な繋がりを持たせ、観光面に役立てていきたい。こういったことは今後策定する地域ビジョンの中でぜひ皆さんからもアイデアを出していただきたい。

佐藤（旭） 委員 中学校の整備事業が載っているが、現在協議会でも話題になっている統合問題との関係はどうか。

政策推進課長 今回の松山中学校の整備事業については、耐震診断の結果を踏まえ整備を検討するものである。統合は教育委員会の考え方もあるのでそちらと十分話し合っていたいただきたい。あくまでも、耐震診断の結果、必要なことはやっていくということである。

佐藤（旭） 委員 統合計画が固まるまでは事業には入らないということか。計画には平成25年からと載っているようであるが。

太田支所長 松山中学校及び松山小学校整備事業については耐震診断の結果を受けた改修の是非と、もう一つ暖房機器の整備もあります。それぞれの改修は学校の様子を見ながらということになります。中学校については統合という課題がありますが、まだ具体的にはどの段階で、どのように進めていくかは決まっていな

いので、状況を見ながら改修を進めていくことになる。

阿部 委員 松山地域の整備方針については、おおよその形は見えてきた。心配するのは例えば賑わいと活力のある地域づくりについては、人がいないと賑わいは出てこないと思う。今後の人口動態がどうなっていくのか、場合によっては事業を変更する必要も出てくるのではないかと。人が少なくなれば事業の縮小もありえるのではないかと。過疎計画には平成 17 年度までの人口動態は載っているが、今後の予測は載っていない。人口によって計画が左右されないか心配な面もある。眺海の森については他地区から来るお客さんは良しとして、地元の人がどれ位集まってくるかは心もとないものがある。計画的に人が集まらなければ事業にも支障をきたすようになる。事業を推進するうえで人の動きがどうなるかきちんと押さえておく必要がある。

政策推進課長 今回の資料は 5 年ごとの国勢調査をもとに作っている。確かに今の酒田市の広報には、松山地区の人口ということでは載っていない。これから皆さんが地域ビジョンの策定にあたって地区の人口の資料が必要であれば提供したいと考えている。心配している人口減少とか高齢化については過疎計画の中の集落の整備及びその他の項目で取り上げている。定住促進と併せて交流人口の増加を図り、経済効果を高めていくものである。また、国の進める地域起こし協力隊等の活用も計画しているので、今後のビジョンの策定にあたって参考にしてもらいたい。

小田 委員 3 点ほどお聞きします。1 点目ですが資料 1 の地域ビジョンを 3 地区に分けたのは地域課題があるからだと思いますが、項目の出し方については共通点があれば同じ表現でも良いのではないかと。また、資料 3 の前にこの過疎計画が適用になる地域がわかる資料を載せて、次に八幡地域、松山地域、平田地域の資料が続いたほうが良いのではないかと。商工会でもいろいろな事業をやっていますが、今は名称も予算の確保も 3 地区バラバラです。しかし合併後 5 年も経過したのでそろそろ統一しようという気運が高まっている。2 点目ですが対象事業の区域の選定と優先度がどうなっているのか、人口割りか、戸数割りか、総合的な計画による判断なのか。3 点目は合併後に事業所や公共施設の買物はほとんど旧町の地元への発注は無くなったことです。過疎地域にある商店等はなるべく地元を使ってもらいたいと思っている。今後はこういった問題をどう解決していくか。

政策推進課長 1 点目の過疎計画のつくり方については、国から示された基準に従っているものであり、ご理解をいただきたい。事業の名称の統一については、一体感を持たせた方が良くと思う人に、それぞれ地域性を持たせた方が良くと思う人がいるので、本日の地域協議会で話題になったことを伝えておく。事業の対象については具体的な事業名をあげてもらえば個々に説明したい。基本的に道路工事以外は名称により概ね判断できるものであり、ソフト事業については全域で

取り組むものである。また、2点目の事業の割り振りについては、基本的に合併後5年も経過しているので市全体を見ながら判断しているものであり、地区別・人口割りで配分するのではなく、必要な箇所に必要な措置をとるものである。施設整備の基本は既存の施設をいかに有効に使うかである。ただし、どうしても必要だという施設は今後みなさんと検討を重ね、必要性和効果を検証し整備することになる。3点目の地元からの買い上げについては市の方針として地元から調達できるものは地元から買いなさいと指示されている。そういった事例があればお伝え願いたい。

- 佐藤（旭） 委員 この過疎計画はある面では画期的なものである。従来から課題となっており緊急性の高い事業から取りかかることはやむを得ない。しかし、前も言いましたが、この地域の将来の姿がいまだに見えてこない中で将来に向けた思い切った事業が見い出せないでいる。たしか前に将来計画を策定するプロジェクトを立ち上げるという話を聞いたがその後どうなっているのか。早急に立ち上げて酒田市の中で松山地域がどんな役割を果たしていくのかを検討すべきである。
- 地域振興課長 現在、過疎計画の策定に全力をあげており、プロジェクトの立ち上げが遅れている。過疎計画策定後早急に対応する予定である。人員については以前の協議会で事務局に一任させてもらうことになっている。
- 佐々木会長 ほかに御意見はございませんか。無いようでしたらこの案件については質疑を打ち切ります。

（2）平成23年度地域づくり予算について

地域振興課長が資料4に基づき説明を行う

【説明概要】

- ・松山地域協議会運営事業については内容は今年度と同様である。
- ・青少年国内外交流事業については鹿児島県志布志市との交流事業は今年度と同様ですが中学校のアメリカ・ライトハウスチャータースクールとの交流は、来年度は受入れ事業となる。
- ・ふるさと会交流促進事業については今年度と同じく、東京松山会との交流事業となる。
- ・4番の地域振興事業（生涯学習関連）については来年度中身を少し変えたいと考えている。昨年度までの野外写真会に替え、来年度は農商工業者、コミュニティ組織などと連携した地域づくり研修会等により、地域の抱える課題の解決を図りながら人材育成を行う事業を展開する。
- ・5番の地域振興事業（商工観光関連）については、今年度まで継続事業として取り組んできた事業ですが、来年度からは新しい事業として取り組む予定です。
- ・場外馬券発売所周辺美化と花いっぱい事業については従来どおりですが、なお一層の自治会やボランティア協力が得られるようにしていきたい。
- ・最後の生涯スポーツ振興事業については、若干の新しい種目を追加しております。

【協 議】

長堀 委員

花いっぱい事業について、小見地区では従来から自治会で取り組んできたが、自治会によっては資金の援助を受けていたり、行政で管理していたりで不公平感がある。自治会に任せるのであれば、どこも自治会に任せるべきである。もう1点は場外馬券発売所周辺美化事業で地元の3地区に補助金が入っているという話を聞いたことがある。これからも管理費を支出していくのか、金額がいくらなのか教えていただきたい。

地域振興課長

1点目の花いっぱい事業については、同様の道路の交通島の植栽は松山地区で6自治会にお願いしているが、いずれも資金的な援助はやっていない。業者委託で一番費用の大きい場所は眺海の森のロッジ近辺の植栽管理である。基本的に観光施設の周辺なので所管課へ管理をお願いしたいところですが、従来から松山総合支所で管理してきた経緯もあることから、来年度も地域振興課で予算要求を行っている。本町の上堰両側から里仁館前の道路周辺の植栽については1回目は業者委託であるが、2回目は周辺自治会とボランティアで行っている。今後、他の自治会でもボランティアで花を植えたいという希望があれば、花苗の提供は行っていきたい。もう1点の場外馬券発売所周辺美化事業については馬券発売所を訪れたお客さんが周辺にゴミ等を散らかすため、その清掃及び周辺の草刈りを地元へ委託しているものであり、金額は1自治会が166千円、2自治会が83千円である。

遠藤 委員

ふるさと会交流事業ですが、この中に旧宮城県松山町との交流事業を含めていただけないものか。現在も続いている事業としてはスポ少のサッカー、野球及びグラウンドゴルフ、シニアソフトボールがある。5年前に、市町の合併時に区切りをつけようと記念大会を開催したのですが、その後宮城松山の強い希望で今日まで続いているものである。体育協会でもある程度の補助はしている。

地域振興課長

遠藤委員の言われるとおり、宮城松山との交流は友好町盟約締結20周年をもって行政の手を離れ、その後は民間レベルでの交流を続けることで話し合いが持たれたと聞いている。特定の団体だけに補助金を支出する訳にはいきませんが、人的、物的支援は可能なかぎり協力していきたい。

佐藤（洋子）
委員

青少年国内外交流事業について、前回こちらで受入れをするときに、なかなか受入れ家庭が見つからないと困っていたが、こういう状態で事業はいつまで続ける予定なのか。

地域振興課長

実際問題としてアメリカへの派遣希望者も減少している。時期的にいろいろな事業、大会と重なって厳しいという話もあるので、そのへんのところを解消すればもう少し参加しやすくなるとは考えている。受入れに関してもたいへん厳しいものがあるとは聞いていますが、交流の始まりは日本とアメリカの中学校同士の話し合いからであり、行政から止めますとは言えない。ただ、年々希望者が減っているという現実を踏まえ、参加対象を松山地区から酒田地区へ広げる等の検討は行っているところである。

佐々木会長　ほかに御意見はございませんか。無いようでしたらこの案件については質疑を打ち切ります。

(3) その他

佐々木会長　第1回地域協議会で取り上げました学区再編について、その後に教育委員会が各地域で説明会を開催したとのことなので、結果をお聞きしたかったので本日、急ではありましたが、教育委員会の方から来ていただきました。報告の後に質疑応答の場を設けたいと思います。

教育委員会学区改編推進室岩堀室長が説明会での質疑応答を説明する。

【説明概要】

今年の6月から8月にかけて地域協議会、自治会連合会、各コミ振、各小学校PTA単位で松山中学校の学区の改編について説明会を開催してきました。今回、話し合いの結果を地域協議会の皆さんにご報告したいと思います。総じて申し上げますと中学校の統合はやむを得ないという御意見でありました。また、生徒の急激な減少の推移を考えたら早期の統合に向けてスケジュールや準備を詰めて欲しいという意見も少なくありませんでした。一方、統合については反対ではないが、中央にすべての施設を集めるのではなく、地域活性化の観点にも配慮して場所を決めて欲しいという意見もありました。具体的には飛鳥中という名前を出して、統合の説明をしましたが、飛鳥中と統合しても、その先、生徒数の減少が続けばどうするのかという質問がございました。このことについては、今年度から平成34年度までの生徒数の推移はある程度見込まれるが、その期間は1学年3クラスは維持できる見込みである。その後については現段階では予測にすぎないものである。松山学区も平田学区も広いものとなっており、急激にこれ以上の学区にすることはいかなるものかと考える。あくまでも地域的な繋がりに配慮しながら隣り合う中学校同士の学区で話し合いを進めたいと申し上げてきております。以後、各地域で出された御意見を紹介します。

【内郷コミ振】

- ・生徒が少なくなれば専門教科の教師が少なくなる。統合するのであれば早めに準備をして統合に向かった方が良いと思う。一番は生徒のため、統合は早め早めに進めて行くべきだと思っている。
- ・今後のスケジュールや生徒数も把握している訳なので、統合に向けてスケジュール内容を詰めても良いのではないか。
- ・統合の気運を盛り上げる仲人は誰がやるのか。
- ・地域から学校が無くなるのは辛い。全部中央に集めるのではなく、地域の振興にも繋がるよう望みたい。
- ・小さいのは、みなダメで大きいのにみな集めますということではないはず。
- ・数字的な推移を見れば、飛鳥中と松山中が統合しても、また減少し更なる学区編成が必要になるのではないか。そのへんの考え方を出示していただきたい。

【松嶺コミ振】

特に、質問や意見は無かったが、総じて生徒の教育のためには統合もいたしかたないという

雰囲気であった。

【南部コミ振】

- ・かねがね話題にはなっていたし、松山中単独での存続は難しいと考えていた。相手校も飛鳥中という噂もあった。生徒数の推移を見ると致し方ない。若干距離は遠くなくてもバス通学の対応もあるし、統合に賛成の保護者が多い。そんなに問題はないように感じる。
- ・規模が小さいと部活動も希望するクラブがないという話は聞く。そういったことから考えると、ある程度の規模、生徒数がないといけないということは理解できる。一方で、この地域では小学校の存続も関心事である。

【山寺コミ振】

- ・子どもたちの教育に影響をきたしてはならない。そのための対策なので反対するPTA もいないのではないかと。ただ、統合の場合はどっちに来るのか、場所がどこになるのかが次の問題である。
- ・地域では学校という教育施設が無くなることにより活性化が失われることになる。ただ、基本は子どもたちの教育環境を整えることであり反対ではない。
- ・統合に反対の気持ちはない。地域から学校が無くなるのは寂しいが、子どもの教育環境を考えればいたしかたない。
- ・早期の統合を望む人が多い中でいつ頃統合を考えているのか。松山中の推移を見れば25年度に5クラスとなる。急ぐべきである。
- ・一中、五中あるいは平田中、二中より急ぐべきではなかったか。
- ・通学のことを考えれば、学校がどこになるのかむしろそちらが心配である。

【松山小学校区PTA】

- ・自分も松山中の卒業生であるが30年違うとこんなに違うものか。当時も中学校は内郷、地見興屋、松山合わせて2クラスしかなかったが、それでも77～78人いた。母校がなくなるのは寂しいが、人数が少ないと部活の選択肢も限られて、顔ぶれも変わらずでは統合は仕方ないと思う。
- ・特に統合に反対の気持ちはない。子どもはいつ飛鳥中と統合になるのだろう、早くしてしまえばいいのにと言っている。親としては、いつごろをイメージして進んでいるのか、どこに学校ができるのかということの方が気になる。
- ・松山学区を見ていると小規模校の良さもある。一人ひとりに光を照らす部分が多々あり、一人ひとりが主役になれる。ただこの数字の状況をみる限りでは統合は止むを得ないと感じる。心配なのは、地域から学校がなくなるとその地域が衰退してしまうのではないかと。という点。
- ・地域と地域の話し合いとともに保護者の皆さんの親睦を深めることも大事。お互いに理解してもらえるような話し合いを進めて欲しい。保護者の皆さんも自分の利ばかりを主張するのではなく、相手方の事情も考えてスムーズに進んで欲しい。
- ・生徒数の推移を、30年とか50年の単位でみると、減少率は加速しているように感じる。飛鳥と松山だけで足りるのか。10年もすると同じような局面にくるのではないかと。

【内郷小学校区PTA】

- ・なんとなく、飛鳥中には具体的な焦りがないように感じる。

- ・どこの学校であろうと親同士の付き合いなんて、後に考えればいいのでは。先ほど心配された吸収統合のような気持ちをもってしまうというのも、個人的には何も気にならない。ようは子供の教育環境をいかに確保するかが一番の根っこ。
- ・要望だが、平成25年度あたりを目途に統合して欲しい。松山と飛鳥は、球技大会を合同でしたり、保護者同士もある程度交流があると思うので、そう大きな問題が起きないように思う。心配しているのは学区が非常に広くなることでの通学の便の問題。
- ・内郷小でPTAの役員をしているが、討議として挙げたことはない。個人的に風評も含めてまとめると反対の人はいなかった。もう少し納得するまで話を聞きたいというのが正直なところではないかと感じた。
- ・説明会への参加人数が少ないということは、大体の皆さんが統合に理解して具体的に進んでいくという捉え方をしている表れだと思う。

【地見興屋小学校 PTA】

- ・小さくていい面もあるが、大きい場所に出た時に人に馴染めないだとか、競争心がないという部分が見える。個人的に考えて小学校の統合は反対ではない。中学校については、できるなら早く統合した方が良い。
- ・一中・五中など人数の多い学校が統合するのに、なぜ松山中は話題にならなかったのか。先細りが深刻な事態だ。統合はむしろ遅いくらいだ。

岩堀 室長 統合相手先である平田地域の説明会については、松山地域での説明を終えてからと考えていたが、一中、五中の校名についての説明会や議会対応、最初に地域協議会に説明したいという当方の都合で遅れている。明日に平田地域協議会で説明し、その後にコミ振、学校単位での説明と、松山地域と同様の説明に入りたいと思っている。

【協 議】

佐々木会長 内郷村、松嶺町、上郷村が一緒になって松山町となり、組合立の中学校をつくる時、時の指導者はどんな学校をつくるべきか、こどものためにどうあるべきかを最初に打ち出した。そういう面からは今回の統合について旧松山町の方針も遅れたし、酒田市の方針も少し遅れていると思う。考え方、希望を先に出すべきだと思う。

土田副会長 今、お聞きしたところによれば、どこの地域に行っても賛成の意見のようですが、学校が無くなると地域が寂しくなるといった反対意見はありませんでしたか。

岩堀 室長 少数意見でしたがありました。

土田副会長 これからの課題は、相手先の平田地区の考え方である。統合の仲人役を誰がやってくれるのが重要なことになる。

阿部 委員 以前の地域協議会で統合の話がでたときに、教育委員会としては今年度中に学区改編審議会に諮問したいということでしたが、今も変わりがないと理解してよろしいか。

岩堀 室長 そのとおりです。

今田 委員 統合が成立したと仮定して、今の飛鳥中に松山中学校の生徒が移るとしたら、校舎は間に合うのか。

岩堀 室長 今までの説明会では場所については説明してきませんでした。まずは両地区で統合に向けた意志の統一を図ることに重点を置いてきた。場所については教育委員会の考え方もあるので第2段階で説明させていただきたい。但し、酒田市の貴重な財産である学校はできるだけ活用したいという話はしてきた。仮に話のあった飛鳥中になったとしたら、統合する年度によってはクラス数が変わってきますが、例えば、平成25年度または平成26年度に統合するとクラスの数は10クラスとなり、翌年度からは9クラスとなり、1学年3クラスの状態がしばらく続くものと想定している。教室は足りなくなるので、必要に応じて増築または改築で対応することになる。

土田副会長 昨年の協議会の時に、各学校のPTA会長から出席してもらい意見を聞いたところ、中学校の統合はやむを得ないが、松山地区が平田地区にお願いしての統合という形ではなくて、お互いが対等の立場でゼロからのスタートにさせていただきたいという意見があった。それには、平田地区の人にも統合によるメリットがあるのだということ認識してもらう必要がある。その点を十分アピールして説明会を行っていただきたい。

岩堀 室長 教育委員会ではあくまでも対等な統合であると考えている。説明会では松山地区と同じように生徒数の推移を元に説明するつもりですが、平田地区は松山地区と違い、わりと緩やかな減少が続いていく。しかし、統合して一定の規模になると先生の数も増えることや、部活動の選択肢も広がり、活発化する等のメリットは説明していく。また、10年～20年先を見たときに、今あわてて統合する必要があるのかという意見も想定されますが、酒田市としては隣り合わせの学区を1つの単位として統合を進めたいと考えている。

今田 委員 中学校が統合したらコミュニティ振興会の区割りは変わりますか。

岩堀 室長 コミュニティ振興会は基本的に小学校単位であり、中学校の統合は影響ありません。

遠藤 委員 今まで大きな反対もなく話が進んできた。一中、五中のように統合近くになって、あわてて説明し、地域が納得しないような状況にならないよう、平成25年度を目指して平田地区にも早めに取り組んでいただきたい。

渡邊 補佐 今年度、鳥海八幡中学校が開校した。両地区は統合準備ということで2年間話合ってきた。規模的に松山平田地区のケースに似ている。どちらも、期待しているもの、望んでいたものが実現したものである。鳥海は学級数が少なくなって生徒会活動や部活動に支障をきたしていた。八幡は生徒数が増すことで生徒会をはじめ、新しい部活もでき学校に活力が増してきた。松山、平田についてもみなさんの期待に応えられるように進めていきたい。

今田 委員 活気が出てきたという鳥海八幡中学校を見学はできるのだろうか。

渡邊 補佐 それは可能ですが建物自体は八幡中時代のものであり、何も変わってはいない。

しかし、生徒数や部活も増え、また統合ということで生徒も保護者もこれを機にがんばっていこうという気持ちになり、いろいろな面でプラスになっている。この統合はお互いに地域が近いということもあり、また、統合準備の中で生徒会や部活、保護者等の交流会等も開催したことで、統合についてはごく自然に違和感なく進んだ。結果としては駅伝では県で1位になったし、野球の新人戦では準優勝することができた。他の部活も人数が増えたことにより非常に活気が出てきて、保護者も非常に満足している状況だ。そういった状況の視察の希望があれば配慮いたします。

佐々木会長　ほかに御意見はございませんか。無いようでしたらこの案件については質疑を打ち切ります。その他でなにかございませんか。無いようでしたら議事は終了いたします。全体の中でのその他はございますか。

建設産業課長　お知らせがあります。以前ハンググライダーの発着場のあった外山の農村公園内に設置している東屋の基礎が崩れており、ロープで立ち入り禁止にしています。東屋の重みで崩れるものであり、今回ベンチ等を残し、東屋は移設することにしました。移設先は今検討中です。

佐々木会長　ほかにございませんか。無いようですので本日の協議会は終了します。最後に副会長から挨拶があります。

土田副会長　今日は欠席者が多くて、惜しい感じがしますが、協議会にとって差し迫った問題であります学区改編について、教育委員会からたいへんていねいな報告があり、意義のある会議となりました。それでは、第3回の松山地域協議会を終了いたします。